

ゼロ・ウェイスト 円卓会議 会議録

部 会 名	ゼロ・ウェイスト円卓会議		記録者	福田(クリーンセンター)
開催回数	第5回			池崎(環境モデル都市)
開催日時	平成21年10月1日(木)18時30分～20時50分			
開催場所	クリーンセンター			
出席者	所属	名前	所属	名前
	熊本学園大	宮北	ごみ減量女性連絡会議	永野
	熊本学園大	藤本 延	水俣自然学校	小里
	熊本学園大	西村	エコタウン協議会	田中
	市議会議員	西田	環境対策課	岡本
	婦人会	前田	クリーンセンター	福田
	リサイクル推進委員	桑畑	環境モデル都市推進課	川野・池崎
	出席者 計			計 13 名
欠 席 者	水光社	廣田	市議会議員	中原
	エコネットみなまた	山下	商工観光室	光田
	茶生産者	松本	教育旅行プランニング	森山
	欠席者 計			6 名
内 容	1. 前回の確認、環境モデル都市推進課の事業報告等 ●前回の確認 : 会議録参照 ●8月市民講座「給茶スポットとおいしいお茶の淹れ方」の報告 事務局) 8月25日に、給茶スポットとおいしいお茶の淹れ方についての市民講座を開催。当日は26名の参加があり、会場のふれあいセンターがいっぱいになった。当日の写真を資料に掲載している。 商店街や、ふれあいセンターの管理をしている母子会からの参加もあり、給茶スポットの取り組みに興味・関心を抱いていたようだ。 《意見・質問》 ・この市民講座を通じて、初めてふれあいセンターに行った。このような企画をふれあいセンターでするのは、施設の周知にもなり、よいと思う。 ●給茶スポットの展開について 藤本) 給茶スポットのロゴデザインを依頼しているデザイナーから、デザインのイメージをもらった。茶園から海を見たときのシンプルなデザインのもの。現在デザインを詰めてもらっている段階。ロゴと実際の風景写真、お茶を一緒に見せながら展開していきたい。 また、水俣産の商品や、市の名刺等にも、このロゴデザインを使用するといった展開ができないか、作業部会を新たに設置して考えていけないか。 ●ゼロ・ウェイスト協力校への証書授与について 事務局) 9月に来水した福岡の中学校二校に、ごみゼロ推進活動協力証書を授与した。その様子を資料に載せている。水俣を訪問する団体、学校への事業の周知をお願いしたい。 2. ゼロ・ウェイスト作業部会の報告 ● 資料をもとに、作業部会の報告(環境対策課、以下 環対)。 ● 資料の最後から1, 2ページの図について、追加説明。 藤本) 一番最後のページの図は、顔をイメージして作成した。文字が入ったものや、ステッカータイプのもの等もあるといいのではないかと。 環対) 最後から2ページ目の図は、ゼロウェイストをものの流れから考えたときの様子を示している。まず、①エネルギーや資源を「できるだけ減らす」、②生活の中で排出するごみや廃水等を「かぎりなく減らす」、そして、ごみを減らすだけではなく、自らの生活を見直して、③「できるだけまわす」ことによって、無駄をなくしていこう、というもの。 ②の部分が水俣病とつながる部分。 真ん中の家の部分には、家庭や地域、水俣市、熊本県、国等、様々なスケールの主体が入る。 ④の「みんなでつくる」は、まず、水俣でこのような形をつくり、そこから、水俣以外の他の地域と連携していくことを意味している。			

内 容	《意見・質問》 ・ 家の部分は、家庭だけでなく地域をイメージできるようなロゴにできないか。 ・ お茶のロゴとの統一性も考えた方がよい。 ・ イラストの中に、ごみの現状についての具体的な数値も入れたい。例えば、きちんと分別すればこの量になる、というように。独身向けとか、4人家族向けなど、いろんなバージョンがあるとよい。 ・ このような宣言を出すことを市民があまり知らないのは、もったいない。もっと市民の声を組み入れるべきではないか。また、宣言に地名など固有名詞をいれたらどうか。 ⇒まずは自分が知らせたい人に知らせていくことが大切。今回のゼロ・ウェイスト宣言で終わりのではなく、それが始まりとなる。まず宣言することが大切なのは。 ⇒市民の声を拾っていく取り組みが、エコスマイル・プロジェクト。 ⇒固有名詞を入れることには賛成。 ・ 円卓会議など、これまでの経緯を広報でもっと宣伝して、市民に知ってもらいたい。 ⇒11月1日号の市報で、市民にこれまでの経緯を知らせる。 3. 水俣市におけるごみの現状分析について ● 資料をもとに説明（クリーンセンター、以下 クリ） クリ） 処理に一番経費がかかっているのは、可燃物。市民から出される可燃物のほとんどは、紙。これをきちんとリサイクルに回せば数千万は経費が削減できる。生ごみはごみの量が増えれば増えるほど、経費がかかる。その他は一定量を越えるまでは経費は変わらない。 あと、お金がかかるのは収集運搬の際の移動。 《意見・質問》 ・ このようなごみの決算については、市民にわかりやすい形で情報提供すべき。それがごみの減量化につながる。 ・ 紙ごみを減らすことがごみゼロへの道だといえる。 ・ 葉山町では、おもしろい可燃ごみの有料化制度を試験的に実施している。きちんと分別された際に想定される可燃ごみがちょうど入る大きさの袋を無料で配布し、それに入りきれない場合はお金を支払うというもの。200世帯でテストしているが、いまのところうまくいっているようだ。 ⇒ 袋の大きさ自体に意味があり、レジ袋の有料化ともリンクできてよい。合理的。 ・ 事業系ごみと家庭ごみとは分けて考えた方がよい。10月からごみの有料化が始まった熊本市では、事業系ごみの半数は分別ルール違反で出されていたようだ。 ・ 子育てと福祉世代の紙おむつが減れば、可燃物の総量も大きく減るのではないか。 ⇒ 堆肥とプラスチック、紙とに分別できる機械があるようだ。 ・ 資源物を出しやすい状況（拠点回収や土日の回収等）をつくることも、同時に考えていかなければ。 ⇒ 商店街の活性化を考えるのであれば、商店街にも拠点がほしい。 ⇒ 車でごみ出しに来る人が多いため、拠点回収をするには駐車場がいる。水光社の駐車場等に置かせてもらえれば、お店側の集客にも繋がるが、清掃、管理などの点でなかなか難しいようだ。 4. ごみステーション調査について 今年度は環境モデル都市フェスタや給茶スポット等の他の事業があるため、実施するには時間的に厳しいものがある。次年度の春あたりに実施を予定することで、一同承認。
次回の日程	11月9日(月) 18時半～ @クリーンセンター (作業部会 10月19日 環境モデル都市推進委員会後)